

PRESS RELEASE

日本女子大学の長年にわたる約 10 万点の調査研究が結実 全点調査完了により「醍醐寺文書聖教」が体系的に国宝として位置づけ 100 年以上にわたる調査の集大成に、本学主導の研究成果が貢献

日本女子大学（東京都文京区、学長：篠原聡子）の文学部歴史文化学科では、文化庁より委託を受け、2013 年度から 2024 年度まで、真言宗醍醐派総本山・醍醐寺（京都市）が所蔵する「醍醐寺文書聖教（だいごじもんじょしょうぎょう）」に関する学術調査を継続的に実施してきました。文化庁の文化審議会が、令和 8 年 3 月 26 日（木）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに美術工芸品として国宝と重要文化財に指定することについて、文部科学大臣に答申したことを発表しましたが、その中に、「〈書跡・典籍の部〉（国宝に重要文化財を統合し、有形文化財を追加して国宝に 1 件）」として「醍醐寺文書聖教」が挙げられました。

今回の追加指定により「醍醐寺文書聖教」は、新たに文書 24,788 点および附文書聖教箱 711 合が国宝に追加され、総点数 94,192 点、附文書聖教箱 711 合となり、国宝としては最も点数の多い史料群のひとつとなります。本学が 12 年にわたり主導して行ってきた長年の調査・研究成果が、その学術的価値の明確化に大きく寄与しました。



10 月 16 日（金）醍醐寺霊宝館で行われた
「醍醐寺文書聖教」国宝追加指定に関する記者発表※



本学による調査の様子
これまで約 100 名の学生が調査に参加した

※（写真左から）日本女子大学文学部歴史文化学科 藤井雅子教授、永村眞名誉教授、
総本山 醍醐寺 座主 壁瀬 有雅氏、執行長 大原 弘敬氏、文化財保存活用課 飯田 俊海氏

PRESS RELEASE

■日本女子大学による役割と今回の国宝指定

本学における醍醐寺文書聖教の研究は、1990 年に永村眞名誉教授（元文学部史学科教授）が本学に着任し、醍醐寺からの研究費の提供を受けて、史料データベース構築を開始したことを起点とします。このデータベースの構築作業にも数多くの学生が関わってきました。なおその研究基盤は現在、文学部歴史文化学科の藤井雅子教授へと引き継がれています。

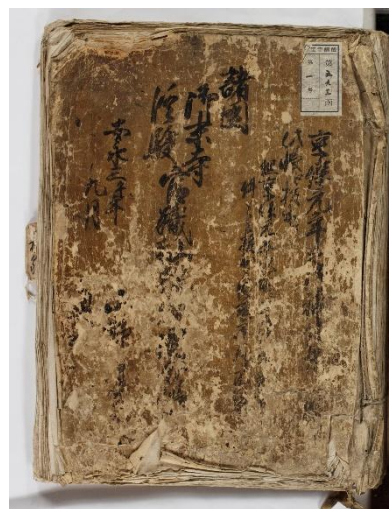
とくに 2013 年度から 2024 年度までの期間は、文化庁より正式に委託を受け、日本女子大学が調査主体として全点調査および目録作成事業を実施し、これまで約 100 名の学生や卒業生が参加してきました。本調査には、長年に亘り学生が参加し、史料目録作成などを担うなど、文化財調査に携わる貴重な学修の場ともなりました。その結果、大正時代から続いてきた調査・目録作成が 2024 年 3 月に完了し、醍醐寺文書聖教の全体像が初めて明らかとなりました。

これと並行して行われた文化庁による確認調査も完了し、既指定の史料に 559 函～815 函を追加するなどして、総点数 94,192 点に及ぶ史料群が把握されました。この全点調査完了を機に、分散指定されていた重要文化財等を統合し、体系的に国宝として指定することが決定されました。

■醍醐寺と「醍醐寺文書聖教」について

醍醐寺は、874（貞観 16）年に聖宝（理源大師）によって創建された真言密教寺院で、907（延喜 7）年には醍醐天皇の御願寺となり、以後、天皇や貴族、武家などの世俗権力者と深い関係を築きながら、東密小野流の中心寺院として発展してきました。「醍醐寺文書聖教」は、同寺に伝来する膨大な文書・典籍・聖教類（僧侶の修学活動の中で生み出された書物）から成り、内容は多岐にわたります。その特徴としては、第一に、平安時代～近代に至るまでの長い時代における史料が継続的に遺されていること、第二に、天皇や貴族の発給文書や、足利尊氏や豊臣秀吉らといった武家との密接な関わりを示す史料が数多く含まれていること、第三に、寺内経営や支配を表す寺院文書、僧侶の修学活動に関わる典籍・聖教・版本類が数多く見られることが挙げられます。

真言寺院に集積された聖教としては質・量ともに第一級の存在であり、宗教史のみならず、日本史、国文学、古文書学など多分野において学術的価値が極めて高い史料群です。



『諸国末寺修験官職帳』
「醍醐寺文書聖教」第 593 函
（写真提供：醍醐寺）

PRESS RELEASE

■調査の歴史と国宝指定までの経緯

「醍醐寺文書聖教」の学術調査は、1902（明治 35）年に京都帝国大学史料編纂所の黒板勝美氏による予備調査に始まりました。その後、1914（大正 3）年以降に本格調査が展開され、1977（昭和 52）年からは醍醐寺文化財研究所による調査へと引き継がれます。当初は古文書を中心とした調査でしたが、対象が典籍・聖教類へと拡大するにつれ、日本史、仏教学、国語学、国文学などの研究者が参加する総合的な文化財調査へと発展し、日本の文化財調査の先駆的事例として大きな影響を与えてきました。なおこの醍醐寺文化財研究所の所員として、永村眞名誉教授、藤井雅子教授のほか、本学卒業生の関口真規子氏（埼玉県立文書館学芸主幹）、西弥生氏（種智院大学教授）も所属し、調査に参加してきました。

その後、文化庁や日本女子大学による調査団により、指定に向けた調査が長年繰り返し行われ、これらの成果を踏まえ、次の通り重要文化財および国宝に指定されています。

- 1989 年：第 1 函～100 函の史料が重要文化財（醍醐寺文書）に指定
- 2000 年：101 函～300 函の史料が重要文化財（醍醐寺聖教類）に指定
- 2010 年：500 函までの史料が重要文化財に追加指定
- 2013 年：上記を統合し、有形文化財を加えた 1～558 函（69,378 点）が国宝指定
- 2026 年：上記国宝に重要文化財を統合し、有形文化財 559～815 函を追加し、国宝指定（94,192 点）。文書聖教箱（711 合）を「附けたり」として併せて指定

■研究と教育をつなぐ学術的意義

2013 年以来、本学主体で行われてきた本調査では、寺院運営に関わる記録類や修験関係史料、事相・教相に関する聖教、版本類など、多様な史料が精査されました。本学教員の指導のもと、大学や研究機関で活躍している卒業生や学生が数多く調査に参加し、実際の史料に向き合いながら調査・整理・分析を行い、醍醐寺の研究を推進してきました。こうした取り組みは、史料を通じて自ら問いを立て、解釈を検証する「主体的・対話的・深い学び」を重視する歴史文化学科の教育の実践例でもあります。実際に、本調査に参加した学生の中には文化財に興味を持ち、卒業後に大学の教員や地方自治体の文化財担当の公務員となったり、文化財の修復に携わる仕事に就いた者もいます。

文学部歴史文化学科は、歴史学に加えて地理学・宗教学・文学・思想など複数の学問分野を横断し、史料調査やフィールドワークを通じて文化を総合的に捉える教育を行ってきました。こうした教育・研究内容の実態をより適切に示すため、2026 年度より学科名称を「史学科」から「歴史文化学科」へと変更し、今後も「実践的基礎学としての歴史学」を基盤とした人材育成を推進してまいります。

PRESS RELEASE

■ 文学部歴史文化学科 藤井雅子教授のコメント

約 10 万点という膨大な「醍醐寺文書聖教」の国宝指定が実現したのは、第一に所蔵者醍醐寺の文化財調査への深いご理解とご支援、第二に長年にわたり「醍醐寺文書聖教」の調査し、データベース構築に着手された永村眞名誉教授のご功績、第三に本学卒業生を含む数多くの研究者のご尽力や、データベースの入力・目録化・調査補助に参加した本学の学生らの協力に依るものと思います。そして私自身も永村先生にお声がけいただき、学部 3 年次から「醍醐寺文書聖教」のデータベース入力や調査に携わらせていただき、それがきっかけで醍醐寺研究もさせていただくこととなり、現在の本学での立場を得ることが出来たと心から感謝しております。

本学の歴史文化学科は、長年、醍醐寺をはじめとする現地での史料調査を行い、それらで得た史料や知見を、大学での教育や研究、文化財に関わる人材育成に生かして参りました。併せてこれらの文化財調査におけるノウハウを継承しながら、今後も国宝・重要文化財指定などの文化財指定や保護にも貢献できるように努めて参りたいと考えております。

■ 10 月 17 日(土)より醍醐寺で

「醍醐寺文書聖教国宝指定完了記念 国宝 十万点の祈り」－寛永文化と醍醐寺－を開催

今回の国宝指定完了を記念して、『諸国末寺修験官職帳』（国宝・江戸時代）をはじめ、醍醐寺文書聖教内の貴重な史料を一部公開します。また、今年は「寛永行幸」から 400 年の節目を迎えるにあたり、俵屋宗達『扇面散図』（重要文化財・江戸時代）や、徳川幕府 3 代将軍・徳川家光公の念持仏として伝わる『如意輪観音坐像』（鎌倉時代中～後期）を併せて展示します。いくつかの展示品は本学の藤井雅子教授が解説文を寄せています。お近くにお越しの際は、ぜひ会場へお立ち寄りください。

〈開催概要〉

展覧会名：「醍醐寺文書聖教国宝指定完了記念 国宝 十万点の祈り」－寛永文化と醍醐寺－

会期：2026年10月17日（土）～ 12月6日（日）

※無休、但し、行事等の都合により変更の可能性あり

開館時間：9:00～17:00（発券終了は閉館 30 分前まで）

拝観料：大人 600 円/中高生 400 円/小学生以下無料

※三宝院・伽藍の拝観料は別途必要

※1 ヲ所拝観には団体割引無し

お問い合わせ：総本山 醍醐寺 TEL : 075-571-0002

PRESS RELEASE

【参考リンク】

総本山 醍醐寺

<https://www.daigoji.or.jp/>

文学部歴史文化学科

https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/humanities/history_and_culture/index.html

日本女子大学は、日本初の組織的な女子高等教育機関として創立し、2021 年に 120 周年を迎えました。私立女子大学唯一の理学部を有し、文理融合の教育環境をもつ女子総合大学です。「私が動く、世界がひらく。」のタグラインのもと、自ら学び、自ら行動し、新しい価値を創造できる人材を育てています。2024 年度は「建築デザイン学部」を開設し、昨年度には「食科学部」を開設、さらに今年度には文学部 2 学科の名称変更をしました。2027 年度には「経済学部」の開設、2028 年度には「ファッションデザイン学部（仮称）」および「人間科学部（仮称）」の開設（構想中）、2029 年度には理学部を発展させた「理工学部（仮称）」の開設（構想中）と、継続して大学改革を進めていきます。詳しくは、<https://www.jwu.ac.jp> をご覧ください。



学校法人 | 日本女子大学 法人企画部 広報課

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1 <https://www.jwu.ac.jp/>

Phone. 03-5981-3163 e-mail. n-pr@atlas.jwu.ac.jp

Facebook. [@Official.JWU](#) Instagram. [@japan_womens_university](#) X. [@JWU_official](#)